

企業や団体用、ロゴやメッセージをプリント

統一マスク チーム結束

新型コロナウイルスの感染拡大によってマスクが必需品となる中、大垣市静里町の縫製加工業「スタジオ・エフ」は、企業や団体向けにロゴマークやメッセージをプリントした布マスク「ユニフォームマスク」の受注生産を始めた。

(古家政徳)

◇ 同社は「ローリタファッション」と呼ばれるジャンルの服やアイドル衣装などを手掛けており、3月末にポリエステル生地に鮮やかで精細な図柄やイラスト、写真が印刷できる昇華転写プリントの設備を導入。縫製加工業者が導入するのは珍しいといい、活用方法の一つとしてニーズが急速に高まった布マスクを選んだ。

大垣市の縫製会社 受注生産を開始



企業・団体が従業員や職員にマスクの着用を義務化する中で、マスクをユニフォームの中、マスクを「チーム」として



大垣西濃信用金庫静里支店で使われているメッセージ入りマスク＝大垣市久徳町

一つとして統一させることを発案。「必需アイテムとなったマスクが「チーム」としてまた顧客へのメッセージ性も高まる」と接客業を中心に売り込んでいくことにした。

本格生産を前に取引のある同市久徳町の大垣西濃信用金庫静里支店にロゴやスローガンをプリントしたマスクを寄贈。同支店では、毎週火曜日に15人ほどの職員全員で着用することにした。

マスクは1枚550円で、受注生産は原則50枚から。問い合わせはスタジオ・エフのホームページから。アドレスは <https://studiof.co.jp/>

「昇華転写プリント」を施した布を使ったマスクの縫製作業＝大垣市静里町、スタジオ・エフ